2014年
11月20日
木曜日

伊藤博文がテロリスト?!

中川慎二　教授（ドイツ語教育学・異文化間コミュニケーション）

１９０６年10月26日安重根は旅順で伊藤博文を銃撃した。彼は日本ではテロリストであるが、韓国では民族同胞の英雄である。伊藤は１９６３年11月千円札の肖像画になる。田中宏は『在日外国人』でアジアからの留学生との話を紹介して、「田中さん、日本では歴史というものをどう見ているんですか。今度、千円札に登場した伊藤博文は朝鮮民族の怒りを買って、ハルピン駅頭で射殺されたんでしょう。それを、この期に及んでわざわざ持ち出すなんて」、さらに続けて「私たちがもっと不気味に思うことは、そのことを日本人の誰ひとりとして指摘しないことです。日ごろから政府を手きびしく批判する知識人から、投書欄に登場する庶民にいたるまで。日本では、戦前はともかく、戦後はほぼ完全に言論の自由が保障されているというのに…。それに、同じお札を使う在日朝鮮人の気持ちも少しは考えてみたら」と。田中が指摘するのは、伊藤の千円札を見ても何も感じない日本人と「不気味」に思う彼らとの間にある「何か」である。

近代化の中で日本はアジアで植民地政策をとった。日露戦争に勝利した日本は、１９０５年第２次日韓協約を締結し、１９１０年には日韓併合を強行した。１９０５年から数えると40年間朝鮮半島は日本の植民地となり、朝鮮人は大日本帝国臣民となった。日本に徴用、募集、強制連行された人も少なくない。１９４５年敗戦当時まだ約２００万から２５０万人いた朝鮮人の大半は帰国し、約60万人となった在日朝鮮人は１９５２年サンフランシスコ講和条約が発効すると同時に日本国籍を失った。

最近の事例。２００９年12月４日京都朝鮮第１初級学校に「在日特権を許さない市民の会」（在特会）などのメンバーが押し掛け一時間にわたり街宣活動を行った。事件は刑事訴訟となり、２０１３年10月７日に京都地裁で判決が下され、在特会側に１２２６万円の賠償と朝鮮学校への街宣禁止を命じる判決がでた。最高裁で控訴棄却され２０１４年12月９日判決は確定した。この間、在日コリアンへに対するヘイトスピーチが日本中に吹き荒れた。在特会などの街宣行動は年間３５０件以上報告されている。事態を重く見た国連人種差別撤廃委員会は、日本政府に対して勧告を出した。日本は人権問題では後進国である。

ネット右翼である在特会をルポした安田浩一は自身の経験を語る。取材の際に、在日コリアンの女性が同行した。取材の後で安田は「攻撃されなくてよかったね」と言った。彼女は涙をぽろぽろ流しながら、あの言葉は私にも向けられていたのだと答えた。安田は、ヘイトスピーチで個人が名指されなくとも、在日コリアンである彼女が傷つくことにまでは想像力が及んでいなかった。私たちに必要なのは共感する能力である。ヘイトスピーチは、在日外国人だけでなく、障がいをもつ人たち、高齢者、震災被害者などにも向けられている。私たちは、住民として、市民として、様々な人たちと共に暮らすことを実践しなければならない。それがシティズンシップである。レイシズム（民族主義）の問題に関しては、私たちは部外者ではありえない。歴史認識問題を解決するための第一歩はそこに始まる。■